

2023年度（令和5年度）事業報告

福祉型障害児入所施設 木埋学園

1 施設を取り巻く現状と課題

(1) 事業の種類及び利用定員

① 福祉型障害児入所施設 18名

(2) 県市町村等からの受託、補助事業等

① 日中一時支援事業 2名（11月より廃止とする）

② 短期入所事業 2名

(3) 地域における公益的な取組

① 町内の清掃活動（イオン清掃・町内一斉清掃）

② ペットボトルキャップ回収（キャップリサイクル及び、ワクチン代への寄付）

(4) 運営方針

家庭から離れて生活するという、不安や愛着に乏しい児童が、施設の中で生活をする中での、健全な発達や成長を支援することに努めて参りました。児童虐待を防ぐための権利擁護・虐待防止の研修等に関しては、児童自治会を月に1回開く中で、児童の想いを聞き入れる場の提供や、児童への個別的な指導を行って参りました。

また、近年「性的虐待」が増えている中で、施設内でも「性」に対する取組をより強化するため、児童相談所・外部講師を招き「こどもグループワーク」を主催し、性教育に力を入れて参りました。児童相談所と連携し、個別の心理面談を定期的に継続するなどして、児童の困りや不安を取り除き、情緒の安定に繋げていく取組みも行っております。また、児童の何気ない行動変化や、発言内容にも気を配りながら、学校とも連携し毎月の学校連絡調整会議にて、情報共有を行い、学校・施設と児童の支援の統一も図っております。

職員への虐待に対しての意識を高めるため、権利擁護や虐待防止に関する研修会へ参加を促したり、毎月の職員会議では虐待についてどのような考えを持っているか発表する場を設ける等、職員それぞれの意識を高めるための取組も実施しており、児童への支援にも良い影響が出ていると認識しております。また、開かれた施設を目指し、実習生や施設見学等の依頼は多く受け入れを行っています。人材確保も次年度の課題として今後も継続を続けて参ります。

2 施設の実施策と取組の方向性

(1) 職員が働きやすくやりがいを感じられる職場づくり

ア 福祉・介護業界のイメージアップを図り、多様な働き方を推進する。

実施施策	実習生に対し、ボランティア依頼を行い、関係性の継続を図る。(達成率 40%)
現状と課題	実習生の受け入れはコロナ禍であっても継続的に行っているため、関係性を継続し、将来的な職員確保に繋げたい。
取組の方向性	①実習終了者との関係を維持するため、年間を通じてボランティア依頼や広報誌の送付を行う。
取組の結果	① 由布市社会福祉協議会へのボランティアの要請は継続実施中。(9/5に1名参加)その他は参加に至らず。

イ OJT 制度を中核に職員一人ひとりを育成し、チームケアを推進する。

実施施策	育成体制の構築 (達成率 70%)
現状と課題	様々な特性を持つ児童の支援を行うにあたり、指導する時間がとれない。 職員により指導に差がでている。
取組の方向性	①指導内容の統一 ②職員が質問しやすい環境・フォロー体制をつくる ③メンター側への定期的な面談・指導の機会を設ける
取組の結果	① 毎月のケース会議で児童の支援について支援内容を定め、職員に周知徹底するとともに、翌月のケース会議で進捗状況及び振り返りを行うことで、指導内容の統一がしやすくなった。継続実施。 ② 誰にでも話しやすく相談しやすい環境づくりを指導職中心に取り組んでいる。限られた人員配置の中で、職員それぞれがフォローする気持ちを持って支援にあたっているため、意識は強くなっている。 ③ 面談という形式ではないが、業務を行う中で

	タイミングを計りながらコミュニケーションをとっている。
--	-----------------------------

ウ 職場風土を改善し、職員の定着率とモチベーションを高める。

実施施策	コミュニケーションの活性化（達成率 90%）
現状と課題	男女の職員の休憩場所が異なり、コミュニケーションがとりにくい。支援方法が異なるため、情報共有ができていない。
取組の方向性	①男女交えての休憩時間を設け、情報交換を行う。 ②新館・旧館と離れて職員が支援をしているため、互いに助け合い業務内容を共有していく。
取組の結果	① 男女交えて自然な形で休憩をしており、児童の話や支援についてどういったことが望ましいかなど情報交換ができています。継続実施。 ② フォローしていく意味では、同性支援ではあるが女性職員が男性職員の行っている出来ることをチャレンジして、新館・旧館と別れることなく誰もが支援できるような勤務体制をつくっている。
実施施策	個別支援の強化（達成率 70%）
現状と課題	発達障害、強度行動障害等により、集団になじめない児童が多く、障害特性に応じた手厚い支援が行き届いていない。
取組の方向性	①職員との個別の支援を増やすことで、職員にもゆとりが持てたり児童にも安心感を与えられる機会を増やしていく。
取組の結果	① 個別支援は確実に増えている。土日に担当職員が担当児童と調理実習を行ったり、交通機関を使って買い物に出かける等、自立に向けた取り組みも行っている。

エ 業務の生産性を高め、ワークライフバランスを推進する。

実施施策	業務改善による時間外労働の削減（達成率60%）
現状と課題	勤務外での児童の買い物が多い。 勤務内に仕事が終わらず、残業が増える。
取組の方向性	①業務時間の見直しを行う ②通販等のサービスの積極的な活用。
取組の結果	①年度初めに早出と遅出の業務時間を変更。 業務内に児童の買い物ができるように、事前に勤務表に組み込み時間外にならないよう工夫している。継続実施。 ②時間内に買い物ができるようになっているため、通販等のサービス利用は実施していない。

(2) 利用者児の生活を支えるサービスの質の向上

ア 先進的で魅力あるサービスを提供し、サービスの質を高める。

実施施策	職員の専門性の向上（達成率70%）
現状と課題	オンライン研修が増え、研修率は上がっているが、その後職員への周知が定期的に行われていない。
取組の方向性	①外部研修やオンライン研修に積極的に参加し、復命研修により支援技術を取り入れる。 ②トラウマインフォームドケアについて、より充実した内容を職員へ周知させていく。
取組の結果	① 外部研修・内部研修の充実については、同じ職員が重ならないように把握しながら、参加した。毎月の職員会議にて復命書研修も行っているため、継続実施。 ② トラウマインフォームドケアについては定期的な研修の参加を促しており、加えて性教育にも力を入れている。こどもGWを実施し、関係機関と外部講師を招いて「性」に対する正しい知識を身に付けてもらうための研修を行っている。継続実施。

イ 安心安全で快適な暮らしを保証し、利用者児の満足度を高める。

実施施策	環境整備による満足度の向上（達成率 60%）
現状と課題	障害特性に応じた建物ではない（個室がなく、死角が多い）建物の老朽化。
取組の方向性	①緊急性が高い危険個所においては、児童に怪我や事故が内容速やかに修繕していく。
取組の結果	① 緊急性が高い箇所の修繕について、年度初めに新館遊戯室の間仕切工事、旧館廊下間仕切工事を実施し、児童の特性に応じた空間の提供を行った。その他の修繕計画に関しても計画的に進めている。

ウ 施設機能を積極的に開放し、地域とのつながりを強化する。

実施施策	緊急一時保護・短期入所の受け入れ態勢の強化（達成率 70%）
現状と課題	受け入れの連絡はあるが、職員の配置体制の課題もあり、断わざるを得ない状況が何件かあった。
取組の方向性	①事前登録情報を現場で共有し、受け入れの事前準備や対応の検討を行っていく。
取組の結果	① 今年度の新規短期入所契約児童は 8 名。1 日 2 名の受け入れのため、職員配置や児童の様子を伺いながら受け入れを行っている。緊急一時保護の依頼は 2 件あったが、過度に粗暴行為が見られる児童であったため、断るケースとなった。

(3) 安定的で持続的な経営基盤の確立

ア 収入の安定確保と経費増大の抑制で、安定性の高い財務体質を維持する。

実施施策	入所児童の確保（達成率 90%）
現状と課題	定員に満たしていない現状である。思春期を迎え、在宅や関係機関での支援が困難な中学生・高校生の入所依頼が多い中で、在園期間が短い児童の入所率が増えている。
取組の方向性	①継続して相談支援・放課後デイなどの関係機

	<p>関と連携を図る。</p> <p>②支援困難と言われる児童に対しても柔軟に対応ができるように、職員の意識改革・スキルアップに努めていく。</p>
取組の結果	<p>① 関係機関との連携を図り、前期4名の入所(契約2名・措置2名)後期は1名(措置)の入所依頼があり、定員20名受け入れることができた。しかし3月には2名の児童が退所されたため、再度定員の確保に努めていく。</p>

イ 中長期的な視点をもって、持続性の高い経営を行う。

実施施策	緊急性の高い箇所の整備（達成率 60%）
現状と課題	時代にそぐわない施設環境である。破壊行為や多動な児童もいるため、危険を伴う箇所が多くなっている。
取組の方向性	①緊急性や危険性がある箇所の修繕を行うようにし、環境整備に努めていく。
取組の結果	① 緊急性が高い箇所の修繕について、年度初めにすでに新館遊戯室の間仕切工事、旧館廊下間仕切工事を実施し、児童の特性に応じた空間の提供を行った。

ウ 組織内の連携を強化し、強固な組織体制と経営基盤を確立する。

実施施策	報連相の徹底（達成率 60%）
現状と課題	児者併設施設の為、様々な情報が飛び交う中で報連相の徹底が疎かになっている。しっかり情報をまとめ、上司・職員がそれぞれ報連相の徹底を意識した環境づくりに努める。
取組の方向性	<p>①組織の流れの見直しを行う。</p> <p>②連絡を受けたら必ず上司・職員に報告をするという流れを徹底し、漏れがないよう、職員に徹底させていく。</p>
取組の結果	① 入所率が上がるたびに、組織の流れを見直し（報連相の徹底）新規児童の情報共有・今後の対応策を随時検討してきた。関係機関とも

	<p>情報を共有しながら、連携してその児童にあった支援を継続している。</p> <p>② 関係機関からの電話連絡が頻回にあるため、必ずしっかり情報を聞き、洩れのないようにメモを残すなど、職員には徹底している。職員・指導職・施設長へ報連相は周知する流れを崩さず、対応していく。</p>
--	---

3 目標利用率

事業所	定員	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均/月
福祉型障害児入所施設	20	80%	80%	80%	80%	80%	85%	85%	85%	85%	85%	90%	90%	84%
短期入所事業	2	73.20%	71.80%	69.80%	76.70%	75%	75%	76.50%	76.20%	76.40%	75.20%	73.30%	73.40%	74.30%
日中一時事業	2		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

4 固定資産物品購入計画

(単位：千円)

名称	執行見込額
なし	

5 修繕計画(大規模修繕を除く)

(単位：千円)

名称	執行見込額
トイレ修理代	100,000 円
ドア修理代	100,000 円

6 大規模修繕計画

(単位：千円)

名称	執行見込額
なし	

